

外国語教育メディア学会 (LET)
2017 年度
第 89 回春季中部支部研究大会

プログラム

日時：2017 年 5 月 27 日 (土) 9:30-17:00
場所：名城大学ナゴヤドーム前キャンパス 西館
〒461-0048 愛知県名古屋市東区矢田南 4 丁目 102 番 9
Tel: 052-832-1151
研究大会実行委員長：西尾由里 (名城大学)

主催：外国語教育メディア学会 (LET) 中部支部
後援：愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会



問い合わせ先
メール：支部サイト
<https://www.letchubu.net> の「お問い合わせ」
外国語教育メディア学会 (LET) 中部支部事務局

Twitter: @LETChubu

日程

9:30 受付 【2階 ホール】

9:30 展示 【2階 ホール】

10:00－10:10 開会式 【2階 レセプションホール】

司会：鈴木 薫（名古屋学芸大学）

主催者挨拶：高橋美由紀（中部支部支部長）

開催校挨拶：アーナンダ・クマーラ（名城大学外国語学部学部長）

10:20－11:40 2016年度 LET 学会賞受賞記念講演 【2階 レセプションホール】

**「第二言語のリスニング能力と音韻的作動記憶との関連性
—課題・実験デザインの立案から、データ収集・分析、論文執筆に至るまで—**

講師：江口朗子（愛知工科大学）

司会：鈴木 薫（名古屋学芸大学）

講師紹介：高橋美由紀（愛知教育大学）

言語の習得に一時的な情報の保持と処理を行うワーキングメモリ（作動記憶）が深く関わっていることは多くの研究で実証されています。しかし、第二言語のリスニング能力と音韻的作動記憶の関連性については必ずしも一致した見解が報告されているわけではなく、その理由の一つに作動記憶を測定するテストの種類や項目に一貫性がないことが挙げられます。本講演では、2016年度外国語教育メディア学会の論文賞を受賞した研究について、その背景から、課題・実験デザインの立案、実験項目の作成、データ収集と分析、結果の解釈、そして、論文執筆・投稿に至るまでの一連の過程について、苦労した点やその打開策といった研究の実際についても触れながらお話しいたします。また、本研究では扱うことができなかった学習者の言語知識をより反映した音韻的作動記憶の測定についての今後の展望にも言及したいと思います。

11:40－12:40 昼食

展示等ゆっくりご覧下さい。

【2階 ホール】

12:10－12:40 名城大学 グローバルプラザ見学ツアー

ご参加希望の方は12時10分になりましたら、【2階 ホール】受付にご集合ください。間に合わない方は直接北館2階グローバルプラザへおいで下さい。

12:40－13:00 総会

【2階 レセプションホール】

13:10-15:25 研究発表・実践報告

(1)13:10-13:40 (2)13:45-14:15 (3)14:20-14:50 (4)14:55-15:25

<第1室> 【3階 305】

司会：小島ますみ（岐阜市立女子短期大学）

- (1) 縦断的英語学習者コーパス構築の試み 【研究発表】
杉浦正利・阿部大輔・西村嘉人（名古屋大学）
- (2) 特別支援教育における基本英単語の調査：記憶と音韻獲得の状況 【研究発表】
鈴木 薫（名古屋学芸大学）
- (3) 授業内外における多読の事後活動としての英文ブックレポートの作成 【実践報告】
天野修一（静岡大学）
- (4) メディア・リテラシーと英語教育－readingにおける気付きに注目して－【実践報告】
中川右也（鈴鹿高等学校）

<第2室> 【3階 306】

司会：柳 善和（名古屋学院大学）

- (1) On improving TOEIC scores via a Leitner-algorithm based smartphone app 【研究発表】
Rogers James（名城大学）
- (2) スマホによる音声識認の精度検証と英語学習への利用の検討 【研究発表】
古泉 隆（名古屋大学）
- (3) 工学英語論文頻出語彙の学習効果と語彙方略の使用 【研究発表】
石川有香（名古屋工業大学）
- (4) 工業高校での4技能の指導と「授業は英語で」 【実践報告】
近藤泰城（三重県立桑名工業高等学校）

15:30-17:00 シンポジウム

【2階 レセプションホール】

「多読の可能性を探る」

コーディネーター：西尾由里（名城大学）

パネリスト

(1) 「英語多読コミュニティと英語多読文化」

柴田 里実（常葉大学）

発表者は、インプット量の増加と継続性という視点から、多読を推進している。年間100万語レベルで読ませるための、環境整備（書籍・貸借システム等）とコミュニティ形成（情報共有・ロールモデル等）を提案する。

(2) “The Heart of the Matter: Exploring the Core Elements of ER”

Paul David Dickinson（名城大学）

Since Day and Bamford’s Ten Principles of Extensive Reading first appeared almost 20 years ago they have often framed definitions of extensive reading (ER). However, as various distinct forms of ER emerged over time the conceptualization of ER has become much more fragmented (Waring & McLean, 2015). This variability is not helpful for the field as implementing, researching, and talking about ER within a consistent framework requires a shared understanding of what ER is. This presentation will explore attempts to identify the core elements of ER and consider their pedagogical implications.

(3)「多読の3つのポイント」

西澤 一 (豊田高等専門学校)

多読は、日常的には英語を使わない学習者に言語を使う(英語で考える)機会を提供します。読書中に英語で考えるための3つのポイント: 英文のやさしさ、さし絵と音声の活用、長期継続の必要性、について解説します。

17:30-19:30 懇親会

司会: 近藤泰城 (桑名工業高等学校)

開催校挨拶: 西尾由里 (名城大学)

発表概要

<第1室> 【3階305教室】

発表1 縦断的英語学習者コーパス構築の試み

【研究発表】

杉浦正利・阿部大輔・西村嘉人 (名古屋大学)

これまで多くの学習者コーパス研究では、英文エッセイやスピーキングテスト等のデータを集め、標準テスト得点もしくはエッセイやスピーキング力の評価得点に基づき、横断的に熟達度を比較してきた。より緻密に産出能力の発達を観察するには個人の縦断的なデータを集め縦断的学習者コーパスを構築する必要がある。本発表では、オンラインのエッセイライティング・システム(Criterion)を使用し数カ月にわたってデータを収集することによる縦断的学習者コーパスの構築の試みについて発表する。今回、40人規模の大学1年生の2クラスで、一学期の授業の一部として、一週間に一度のペースで8回のエッセイライティングを行った。研究への同意を得られた63人分のデータをもとに、縦断的学習者コーパスの構築を試みた。こうした縦断的学習者コーパスによりライティング能力の発達を縦断的に観察することができる。今回はエッセイのスコアと総語数の推移について報告する。

発表2 特別支援教育における基本英単語の調査: 記憶と音韻獲得の状況 【研究発表】

鈴木 薫 (名古屋学芸大学)

本研究では、聴覚障害や知的障害を持つ生徒を対象に、基本英単語の習得状況に関する調査を実施し、記憶や音韻獲得の状況について明らかにする。数字や曜日などの使用頻度の高い英単語について、筆記と音読の調査を実施した。調査項目や単語の種類の違いに加えて、障害の種類や程度の違いによってデータを分類して分析する。さらに、特徴的な個別データに着目して、事例研究を行うことで、障害の種類や程度による影響を明らかにする。聴覚障害のみのケースでは、聴覚補償が適切に行われることが重要であり、感覚系伝導路と脳内処理のどこで障害が生じているかによって、言語学習に与える影響の違いがあることが判明している。特別支援教育における英語学習では、障害の状況の多様性を考慮して情報端末や体感音響システムを活用することで、学習意欲や英語力を向上させる可能性が示唆されている。

発表3 授業内外における多読の事後活動としての英文ブックレポートの作成

天野修一 (静岡大学)

【実践報告】

本発表は、英語授業の内外における多読の事後に英文でのブックレポートの作成を課した実践について報告するものである。授業は国立大学における選択必修の半期科目として、週1回90分15回、通常の教室で行われた。授業開始後、学生たちはまずグループを作り、その週に読んだ多読教材のうちから1冊を選び、その本について英語でおおよそ1分ずつ報告し合った。続いて、クラス一斉に10分間の授業内多読を実施した。その後、英語でのブックレポートの書き方に関する教員の講義を受け、練習問題に取り組んだ。残った時間は学生各々の多読の進捗状況に合わせて、本を読んだりブックレポートを書いて提出する時間に充てられた。学生たちは多読とブックレポートに前向きに取り組んだが、ブックレポートを定期的に提出することがなかなかできず、学期の終わり頃にまとめてブックレポートを提出する学生が多かったことが課題となった。

発表4 メディア・リテラシーと英語教育—readingにおける気付きに注目して—
中川右也 (鈴鹿高等学校) 【実践報告】

日本において、メディア・リテラシーは、2000年前後に注目はされたものの、その後は衰退していった(森本 2014)。しかし、ATC21s が提唱する 21 世紀型スキルには、情報リテラシーは勿論のこと、批判的思考が含まれていることから、今後もメディア・リテラシーは重要な 1 つになることは言うまでもない。また、久保田(2017)は、構成主義に基づいて、教育現場では批判的に捉える実践の重要性を述べている。本発表では、メディア・リテラシーの視点から、英語教育を通して批判的思考力を育成する方法の一例を提示したい。具体的には、5 月 1 日にブルームバーグとのインタビューでトランプ大統領が発言した *If it would be appropriate for me to meet with him, I would absolutely -- I would be honored to do it.* を受け、メディアの一部が日本語で「米朝首脳会談にも前向き」という見出しを付けたことを批判的に考え、仮定法や *if* 節内に *would* が用いられている理由を認知文法の枠組みから探り、日英語の翻訳によるニュアンスの差異に着目し、読み解きながら英語教育の重要性を再認識したい。

<第 2 室> 【3 階 306 教室】

発表1 On improving TOEIC scores via a Leitner-algorithm based smartphone app
Rogers James (名城大学) 【研究発表】

This presentation will discuss efforts made to improve upon students' TOEIC scores using a Leitner algorithm-based smartphone app. A study was conducted that compared app usage data versus TOEIC scores and improvements, and students' ability to master app content over a semester. Students who used the apps for the most minutes showed larger TOEIC score improvements. However, students with high TOEIC scores but low app usage were still able to get high scores on app content tests. So, not only does the data indicate that this app's usage correlates with TOEIC score increases, but knowledge of its contents correlates with students receiving the highest TOEIC scores. This data thus points to such an app having the potential to help students increase their TOEIC scores with good efficacy.

発表2 スマホによる音声認識の精度検証と英語学習への利用の検討 【研究発表】
古泉 隆 (名古屋大学)

近年、スマホや PC で音声検索が普及し、また開発者向けには音声認識 API が提供されるなど比較的容易に音声認識機能が利用できるようになった。これらの音声認識は、母語話者による発話を前提としているが、英語学習にも利用できる可能性がある。そこで、本研究では、日本人英語学習者による発話がどの程度音声認識されるかを調査し基礎データを得ることとした。調査では、英語母語話者 1 名および日本人大学生 15 名に 100 語程度からなる英文を音読およびシャドーイングしてもらい録音し、スマホ (Android) の音声認識 API を利用しテキストに書き起こした。その結果、英語母語話者による音読では英文の 99% が正しく書き起こされ、日本人学生による音読ではおよそ 66% が正しく書き起こされた。また、日本人学生によるシャドーイングでは、一定回数シャドーイングを行うと正しく書き起こされる語数が有意に増える結果となった。発表では、調査結果を報告するとともに、音声認識がどのように英語学習に利用できるかも検討したい。

発表3 工学英語論文頻出語彙の学習効果と語彙方略の使用 【研究発表】
石川有香 (名古屋工業大学)

多くの場合、工学系大学では、学部生であっても、研究活動においては日常的に英語論文を読むことが求められている。そのため、コーパス分析により、工学英語論文頻出語彙 (以下、工学英語語彙) を抽出し、早くから計画的に語彙指導を行うことには、一定の価値があると考えられる。しかし、これまで、工学英語論文を読む機会がほとんどない大学下級生を対象とした ESP 語彙指導においては、語彙学習に関する基本的な調査研究が十分に行われてきたとは言い難い状況にある。本研究では、初年次学生対象 (n=143) の工学英語語彙指導におけるプレテストとディレイテスト、TOEIC® 得点、英語語彙学習方略に関するアンケート分析により、1. 工学英語語彙知識と一般的な英語習熟度は、ほとんど関係がない、2. ディレイテストにおいても工学英語語彙学習の効果は期待できる、3. 語彙学習効果の高い学生の語彙学習方略使用数は、低い学生よりも多い、の 3 点を明らかにする。

発表4 工業高校での4技能の指導と「授業は英語で」 【実践報告】

近藤泰城（三重県立桑名工業高等学校）

英語が苦手と思っている生徒が多い工業高校で、4技能を伸ばし、「英語で授業」を目標に取り組んできた5年間の授業実践を報告する。授業では、教科書本文をリスニング、リーディングの順で扱い、スピーキングにつながるように音読を重視している。ライティングでは、文レベルではあるが、「英借文」と銘打ち、そのレッスンのキーセンテンスについて「この文暗記してたら、こんなことも言えるよ」という活動を行っている。本発表では、授業の様子を再現する。

賛助会員展示

チエル株式会社

<http://www.chieru.co.jp/>

株式会社エル・インターフェース

<http://www.supereigo.com>

株式会社桐原書店

<http://kirihara.co.jp>

リアリーイングリッシュ株式会社

<http://www.reallyenglish.co.jp/>

株式会社教育測定研究所

<http://www.jiem.co.jp/>

株式会社アルク

<http://www.alc.co.jp/>

昼食

当日は学内の北館1階 MuGarden は営業しておりますのでご利用ください。イオン、星野コーヒーが隣接しております。

（飲料の自販機は西館1階にあります。）

懇親会

- ・ 時間：17:30～19:30
- ・ 参加費：4000円（飲み物代含む）
- ・ 場所：Mu Garden Terrace
名城大学ナゴヤドーム前キャンパス 北館1階
〒461-0048 愛知県名古屋市東区矢田南4丁目102番9
電話：052-725-7390
<http://www.eatrium.jp/about/>
- ・ 当日参加につきましては受付でご確認ください。
- ・ 懇親会にご参加されます方は、2階受付へお集まりください。

その他の情報

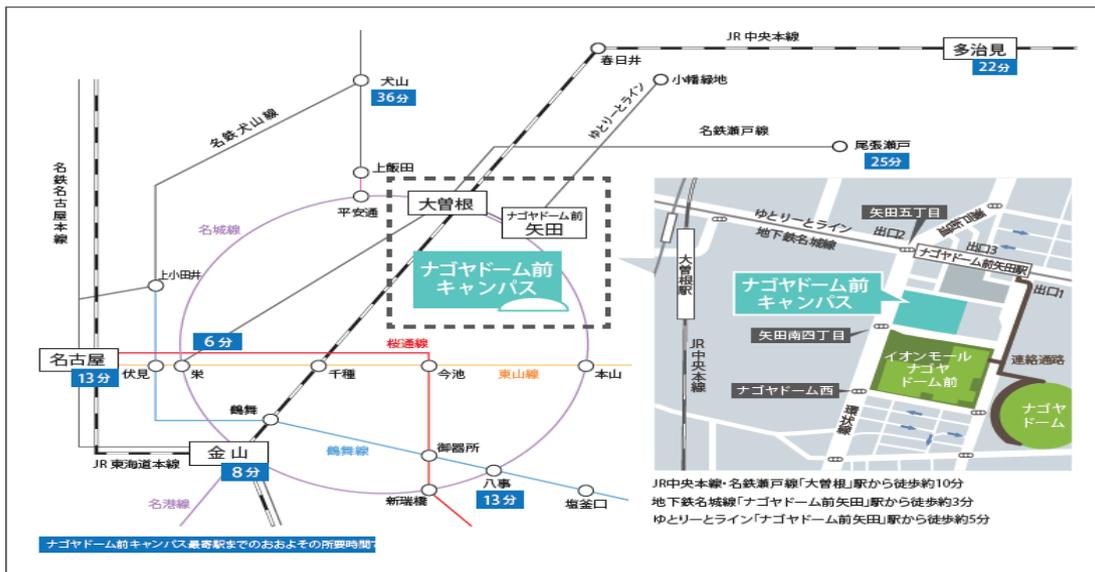
- ・ 荷物置き及び控え室は2階205教室です。スーツケース等置いていただいて構いませんが、必ず貴重品はお持ちになってください。

大会会場アクセス

駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください。

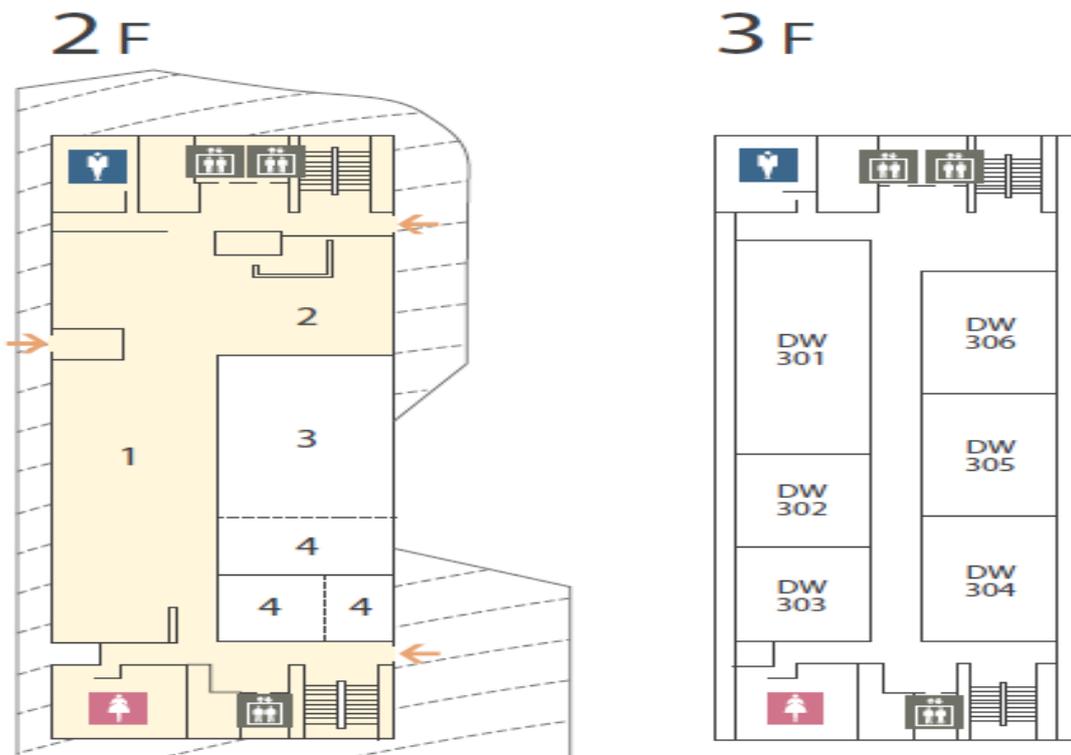
<http://www.meijo-u.ac.jp/about/access/>

ACCESS



会場地図

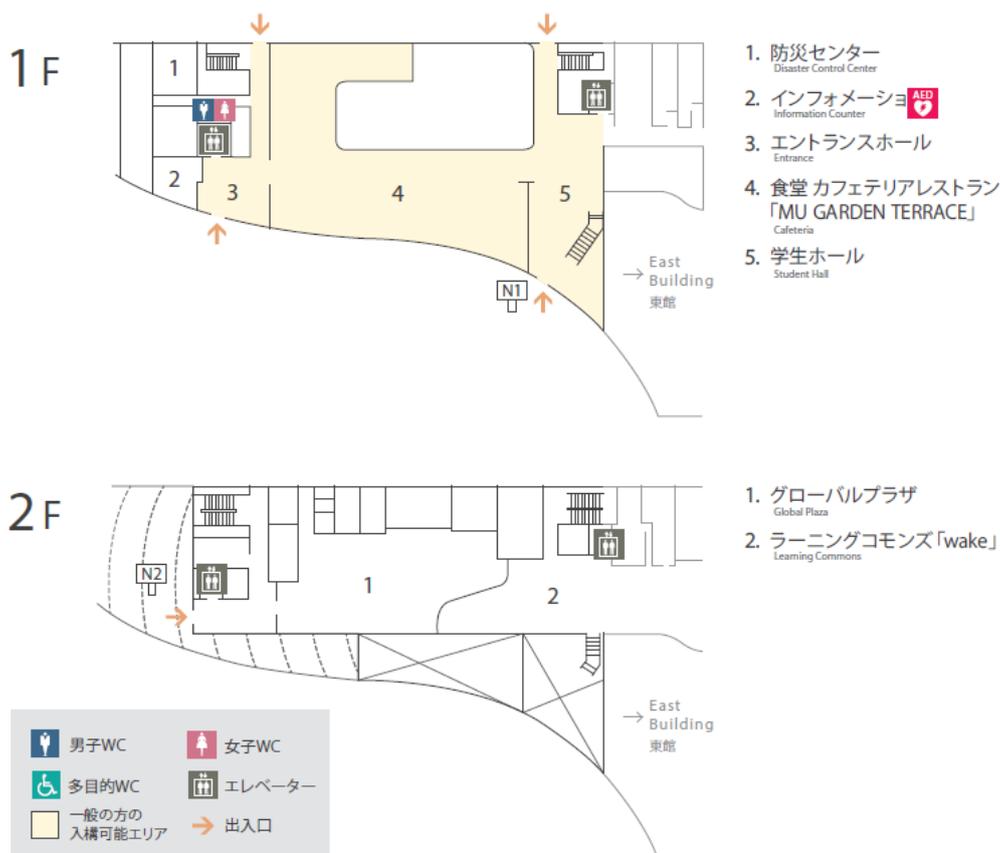
西館



- 1. 社会連携ゾーン「shake」
shake
- 2. カフェ「MU Luncheon & Cafe」
Cafe
- 3. レセプションホール
Reception Hall
- 4. 会議室
Meeting Room DW204-206

- 非常勤講師室 Faculty Room DW301
- 演習室 Seminar Room DW302,303
- 講義室 Lecture Room DW304-306

北館



大会参加のご案内

- 会員の方の参加は無料です（ご参加までに、年会費をご納入ください）。
- 非会員の方は当日会員参加費 1,000 円を受付にてお払いください。

LET 中部支部サイト：<https://www.letchubu.net>

本大会サイト：<http://bit.ly/LETC170527>

新規ご入会案内

LET 会員として入会手続きをしていただきますと、当日会員参加費金額が、年会費から割引されます。会員になられますと、LET 全国研究大会、支部研究大会（年 2 回）での研究発表、実践報告、紀要への投稿などをして頂くことができます。

- ・ 当日会員参加費として 1,000 円をお支払い下さい。
- ・ LET 本部サイトにて入会登録をしてください（仮会員）。
- ・ 仮会員になられましたら、後日、年会費をご請求申し上げます（お支払いいただいた当日会費参加費 1,000 円を割引きます）。
- ・ 年会費をお支払いいただきますと、正会員になります。（3 ヶ月以内にお手続きをお願いします。）

会員登録、会員情報の更新はこちらから

LET 本部サイト：<https://www.j-let.org/>